



初任科第 93 期 不撓不屈

静岡県消防学校 初任科だより vol. 4

～ 水難救助訓練 ～

真夏の厳しい日差しの中、7月19日（火）から21日（木）までの3日間、消防学校のプール（最大水深5m）において、水難救助に関する基本泳法・スキンドイビング・応急救助法を学びました。クロールや立ち泳ぎ等の基本泳法から始まり、着衣泳、衣服等を利用した浮力の確保等の応用的な訓練を実施しました。また、スノーケルの使用方法や耳抜きの手順を教えていただいた後、実際に各々が行けるところまで潜水を試みました。更に、応急救助法において、溺れている人の救助方法や、救助道具の使用法を学びました。

今回の訓練では、数年ぶりに泳ぐ学生やスノーケルの使用方法や耳抜きの手順を初めて学ぶ学生が多く、最初は不安や緊張で動きが固く、ぎこちない様子でした。それでも、数を重ねるにつれて要領をつかみ始め、何とか形になるようになりました。また、学生を要救助者役・救助役に見立て、危険予知の訓練も併せて行いました。

例年、海や川などにおける水難事故が本県でも多数発生しています。今回学んだ知識を、今後の消防人生に活かしていきます。



訓練の様子①（溺者救助）



訓練の様子②（着衣泳法）

～ 非常呼集！ ～

8月5日（金）の朝6時過ぎに非常呼集がありました。消防における非常呼集とは、火災等の災害発生により、指定された職員が現場に急行することを指します。今回は、東北地方への災害派遣要請に伴い、消防用のホース1本と7日分の非常食を大型リュックに入れ指定の場所に集合せよ、という想定での実施となりました。起床時間前の実施でしたが、指令内容や持ち物を聞き漏らすことなく、迅速に行動することができました。

また、非常呼集の後に第2回野外訓練を見据えた強歩訓練を行いましたが、その際に大型リュックが破損した学生がいました。これでは、実際の災害現場に派遣されても十分な活動ができないのはおろか、そもそも出動隊に選ばれるだけの信頼を所属から得ることができません。常日頃から、資器材の整備や状態の確認を徹底する重要性を再認識しました。

そして、10月から所属に戻り、いざ現場に出動した際は「できる新人」になれるよう、各々が目標を持ち、残りの消防学校生活を過ごしていきます。

発行日：令和4年8月19日

発行元：静岡県消防学校

制作：静岡県消防学校 初任科第93期 文化委員

太田 昌希(御殿場)・飯田 宗一郎(湖西)